

かがやき ニュース

「地域での拠り所(サロン)をいっぱい作ろう」



「第16回通常総代会」

6月21日(土)長野市篠ノ井のグリーンパレスで「第16回通常総代会」が開催されました。総代会後に各地域で組合員の集い(懇談会)が開催されます。総代会で決めた方針の具体化を総代さん中心に進めます。ひとつでもふたつでも実現に向けてがんばりましょう。

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 本部・北信地域センター
長野県長野市南長池 761-3
(本部) TEL 026-263-2386
(北信) TEL 026-217-3601 | 中信地域センター
松本市本庄 2-3-18
TEL 0263-31-8200 | 東信地域センター
佐久市下越 612-1
TEL 0267-78-5070 | 南信地域センター
飯田市知久町 4丁目 1203-2
高田ビル 2階
TEL 0265-23-1109 |
|---|---|--|---|

桜井記子さん

社会福祉法人ジェイエー長野会
特別養護老人ホームローマンうえだ
副施設長
佐久総合病院等勤務後、2002年より特別養護老人ホームで職員の人材育成に携わり、認知症の人を支える地域活動に取り組む。
看護師、介護支援専門員、認知症ケア上級専門士



認知症の初期 周囲の対応が鍵

「夕方になるとザルから水がザッと抜け落ちたように頭が真っ白で何も覚えていない。」「字も書けない。何もできなくなってしまった。怒られてばかり。生きていても価値がない。」

アルツハイマー病と医師より告知されて間もなく、涙ながらに語った認知症の初期のAさん本人の言葉です。

大事な約束事も忘れるようになり、ポケットはいつもメモでいっぱい。食欲もなくなり、体重は10キロも減少しました。趣味だったお茶の会も辞めて、閉じこもるようになりました。やがて、介護者である夫の精神的負担も増し、ディサービスに通うことになりました。

ディサービスでは、Aさんがどんな思いでいるか、話を聴くことを大切にしました。失敗の連続、どうなっていくのだろうかという不安や孤独の中で、周囲に助けを求めているのですが、言葉でうまく伝えることが難しくなっていました。職員はAさんが自信を取り戻せるよう、楽しみや出番をたくさん作り、昔、内職でしていた布団づくりもしてもらいました。すると、Aさんに笑顔が戻り、会話も多くなりました。親友も時々訪ねてなじみの話をしてくれ、夫も周囲のアドバイスを受け、優しく接するようになりました。

介護サービス利用とAさんが穏やかになったことで、夫の介護負担も減少しました。サービス開始から10年余、物忘れは進みましたが、みんなに見守られて元気で通っておられます。

認知症の初期は傍にいる人ほど、本人の変化に気付かないものです。むしろ「なぜこんなことをするのだろう」と怒ったり、否定したり、出来ることを奪ってしまったりしまいがちです。本人からすると、最も身近でわかってほしいと思っていた人々に理解されないことで、ますます混乱し、周囲との関係もこじれてしまうことも少なくありません。

近年、認知症の早期診断、早期治療の必要性が唱えられていますが、同時に大切なのは、初期の周囲の人々の対応といわれています。Aさんのように、家族や、馴染みの人々が、本人の伴走者となって、「大丈夫、みんながついているよ。」と、本人のありのままを受け入れ、それまでと変わらぬ関わりこそが、その後の、認知症とともに生きる本人と家族にとっての、より良い日々が送れるかどうかの鍵なのです。

(特養ローマンうえだ副施設長 桜井記子)



長野高齢協組合員数 (平成26年6月末現在)

全体	3,320人
北信	2,024人
中信	665人
東信	469人
南信	152人

集团的自衛権の行使容認を解釈改憲で突破しようとして、国内から一斉に「ノー」の声が上がっています。そしてこのニュースが組合員の手が届く頃には日本の国のかたちも激変するかもしれないという曲がり角にあるこの時期に、第16回総代会が開かれました。事業の健全な運営を旨とすると同時に、高齢協が地域の人々とともに「安心」の社会をつくっていく活動にとりくむことを決めました。高齢期の生きがいを実現していきましょう。(依)

編集後記



日本を「戦争する国」 にしてはならない

安倍首相が集団的自衛権の行使容認を狙って、憲法解釈の変更を閣議決定で強行しようとする動きに、国民の批判の声が巻き起こっています。メディアの調査では、憲法9条改訂反対・集団的自衛権行使反対が急増しています。学者・文化人・弁護士・宗教者など広範な人々が「立憲主義を守れ」「戦争する国」づくりを許すな」と立ち上がっています。私も高年齢協の組合員の中には、戦争の狂気と悲惨を直接経験した方や、近親者に惨禍に巻き込まれた人がいる方などが多くいらつしやいます。人を殺し、人が殺される戦争への暴走を何としても阻止しなければなりません。手許に昭和22年8月2日、文部省(当時)発行の「あたらしい憲法のはなし」がありま

た。諸君はもう天皇陛下万歳と叫んで死ななくても良くなった。自分の人生を自由に生きることが出来るようになったのだ」と、涙を浮かべて教えてもらったことを、鮮明におぼえています。この「はなし」の最後の、最高法規の項に次の文言があります。
①「憲法は、国の最高法規ですから、この憲法で決められてあることにあわなぬものは、法律でも、命令でも、なんでも、いっさい規則としての力がありません。」
②「あたらしい憲法は、日本国民がつくった、日本国民の憲法です。これからさき、この憲法を守って、日本の国が栄えるようにしてゆこうではありませんか。」

日本国憲法の精神は 協同の心と一致する

憲法前文の2項に、「日本国民は、恒久平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理念を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」とあります。ここでいう崇高な理想とは、人のために思う心(人間の善意)のため

ことで、誰しもが持つごく普通の人間的な気持ちです。このことを深く自覚し、平和を愛する世界の人々のゆるぎない決意に信頼し、われわれの安全と生存を保持しようとして決意したのです。我が国はこの決意を67年間守り通しています。それが我が憲法が今年のノーベル平和賞候補に挙げられている所以なのです。平和憲法こそ真の、戦争の「抑止力」なのです。私には「抑止力」という言葉に思い出があります。1982年、NGO世界核軍縮会議がニューヨークの国連を中心に開かれ、世界各国から100万人が集まりました。私は日本代表団の医療担当として参加しました。その時ニューヨークタイムズに核軍縮会議を揶揄する記事が載りました。「強大な核軍力こそが『抑止力』(deterrent)である。これはアメリカの哲学(philosophy)だ」と。怒りを覚えた記憶が、「抑止力」という言葉を聞く度によみがえります。

その他沢山ある課題の 根源にあるものは

とし、みんなで助け合って進めるのが私どもの協同です。そこでは福祉、健康、平和、文化、教育、人間たるに値する生存・労働・暮らしは一体のものであります。私どもはこれらを課題としてとらえ事業運動に取り組んでいます。つまり、私どもはみんなで心と力を合わせ、助け合って、憲法を暮らしに生かす活動をしている仲間なのです。何としても日本国憲法を守り発展させなければなりません。

安倍内閣は戦後国民の努力で積み上げてきた民主的な社会制度や社会資源を、「戦後レジームの解体」と称して破壊する大暴走を続けています。そして大企業が栄えればすべて良しとする、とつくに破綻している経済成長神話を強引に進めています。何としても、経済を人間の共同生活の発展に資するという本来の姿に戻すために、「経済の民主化」をたたかいていかなければなりません。それは「正気の島」たる協同組合の社会的使命です。(市川英彦)

言いたい

読者からの投稿

読者の皆さんからの投稿を一部紹介します。
沢山の投稿ありがとうございます。

○これから日本はどうなるのでしょうか。介護の世界もきびしくなりそうですね。要支援だとボランティアさんに見てもらおうとか・・・いろいろな声があがっています。心配です。こどもから老人までが住み良い日本になつてほしいものです。(Mさん)

○高齢者の生協が長野市の中心市街地より遠すぎます。門前プラザの中には入れないでしょうか?交通の便もよいのですか?(Uさん)

○安倍政権が進めている「戦争する国づくり」絶対反対です。これから平和な社会を子供や孫の為に、大人が声を上げなければと思います。憲法を守りましょう。(Kさん)

○クロスワードパズル大好きです。パズルを作る人、尊敬してまいります。これも、平和な社会だから・・・。平和がいちばん!!しかし、今はあぶない。(Tさん)

歌舞劇団「田楽座」公演 まつり芸能楽信濃

1964年の秋、民俗芸能の宝庫と呼ばれる伊那谷に産声をあげた「田楽座」。日本のふるさとの昔から伝わり、人々の暮らしの中で時代を越えて生き続けてきた唄や踊り、太鼓や舞などの民族芸能を今に伝える集団です。創立50周年を迎え、新たな作品「まつり芸能楽信濃」の公演が6月の駒ヶ根を皮切りに各地で行われます。「山を愛し、人の情を育み、ふるさとを愛する、信濃の国の人々の祭り。木遣り唄が山々にこだまし、踊り手が舞い、大獅子が躍動する。太鼓、舞、田楽踊り、そして盆踊り狂言・・・ふるさとを愛するすべての人に届けたい」今後の公演予定は長野県伊那文化会館ホールで10月11日 18:30開演、10月12日 13:00開演 入場料 一般 3,500円、ペア券 6,000円これから各地での公演を予定しています。また、各種のワークショップや講習会、イベントへの参加も行っています。お問い合わせは ☎ 0265-78-3423 E-mail dengaku@valley.ne.jp (松田みつ子)

かがやき インフォメーション

「公共職業訓練介護コース 受講生募集」 介護福祉分野で、あなたの力を発揮しませんか?

- 「いきいき介護福祉・介護事務」養成科
- ・受講期間：平成26年9月18日～12月17日(土日祝日休み)
- ・目標資格：介護職員初任者研修、介護事務管理士、認知症サポーター、発達障害サポーター
- ・対象者：ハローワークに登録していて、現在求職している方で介護福祉分野の就職を考えている方
- ・受講料：無料(但しテキスト代14,000円、資格取得等の負担額7,800円自己負担)
- ・受講会場：長野県松本勤労者福祉センター
- ・申し込み：8月27日(水)までにハローワーク窓口(松本、大町、木曾福島、伊那、諏訪、岡谷)にてご相談して下さい。
- ・問い合わせ先：長野県松本技術専門学校(電話：0263-58-3158)
長野高齢協 中信地域センター(電話：0263-31-8200 /担当新井)

- 「介護でかがやく」養成科
- ・受講期間：平成26年9月18日～12月17日(土日祝日休み)
- ・目標資格：介護職員初任者研修、福祉用具専門相談員、赤十字救急法救急員、認知症サポーター、福祉住環境コーディネーター3級受験
- ・対象者：ハローワークに求職申込みされている方で、介護・福祉分野への就職を考えている方
- ・受講料：無料(但しテキスト代12,744円、資格検定料等7,520円は自己負担)
- ・受講会場：長野県高齢者生活協同組合研修センター(長野市南高田2-11-2)無料駐車場完備
- ・申し込み：7月18日(金)～8月18日(月)までにハローワーク窓口(長野、篠ノ井、須坂、飯山、大町)にて申込み下さい。
- ・問い合わせ先：長野県長野技術専門学校
長野高齢協 北信地域センター(電話：026-217-3601 /担当前島)

前号のクロスワード正解「シキノベンチ」でした。

正解者：6名 当選者（3名）：牛山良子さん、木内たづ子さん、轟咲子さん
おめでとうございます。クオカード500円と万座温泉入浴券1枚をお送りします。

1	2	3	4	5	6
7		8		9	
10			11	12	
	13	14		15	
16		17	18		19
20	21		22	23	
24			25		

〈前号の答え合わせ〉

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24

〈タテのカギ〉

- ①名を記した下に書く判。書き判。
- ②取捨〇〇〇〇
- ③芝居など興行場の入場料。〇〇銭。
- ④ヤングマン
- ⑤日本で冬季オリンピックが開催された札幌と〇〇〇
- ⑥〇〇〇に冠を正さず
- ⑦豊富な。金持ちの。贅沢な。
- ⑧バレーボールの人気アニメ「〇〇〇はV(ブイ)」
- ⑨約束の日
- ⑩好みの〇〇〇は明るく、気の利く人
- ⑪両生類の一種、一茶の句に登場する
- ⑫豆乳を煮て、その表面の薄皮を干した食品
- ⑬酢味噌和えなどにして食べます

〈ヨコのカギ〉

- ①地層中に残った古代の生物の遺体
- ②「岩魚」と書く魚
- ③オスのにわとり
- ④北陸新幹線で〇〇百万石の金沢へ
- ⑤和歌、短歌は〇〇を詠むと言う
- ⑥あまり役に立たない人の事、〇〇〇〇の猫
- ⑦この季節、とつてもとつても生えてくるもの
- ⑧花嫁が頭の周りに巻く白い布、〇〇隠し
- ⑨同じ事の繰り返しで果てがないこと。〇〇〇ごっこ
- ⑩ランキング
- ⑪位置の高い所
- ⑫唾液腺から出る液体
- ⑬トイ〇〇〇〇は人気の小型犬

応募方法

・ヒントから□に文字を入れて、A～Gまでのアルファベットを順番に並べ替えて、言葉を完成させてください。応募いただいた正解者の中から抽選で3名の方にクオカード500円と万座温泉日進館の無料入浴券1枚をプレゼントします。
☆答え、氏名、住所、日常の出来事やニュースのご意見・感想などを記入して、郵便、FAX又はメールにてご応募ください。お待ちしております。
宛先：〒381-0024 長野県長野市南長池761-3 長野県高齢者生活協同組合「クロスワード」係
FAX:026-263-2385 メール:info@nagano-koureikyo.jp 締切日：8月18日(月) 必着

第8回理事会報告 (2014年5月24日)

第8回理事会が5月24日(土)に行われました。決まった事をお知らせします。
○2014年度4月の決算状況を確認しました。NPOワーカーズコープも合わせた高齢者協同組合全体で事業高52,083千円、事業剰余▲1,336千円という結果でした。予算は達成しましたが、配食、やすらぎサポート事業が赤字です。
○第16回通常総代会の議案書、スケジュールの最終確認を行いました。
○「介護保険制度改悪を許さない」取組みを行いま

す。
①ホームページ、かがやきニュースで高齢協の主張を繰り返します。
②事業所のある市町村の介護保険課や地域包括支援センター等を訪問し、今後の自治体の取組み、地域支援事業等について聞き取りを行います。
③各地域の社会保障推進協議会と連携し、各自自治体と懇談の場を設け、私たちの主張、希望を伝えま

情勢に見合った事業と運動を 全組合員参加で第16回通常総代会開かれる

専務理事 新井厚美

第16回通常総代会が6月21日(土)長野市篠ノ井のグリーンパレスで、実出席68名、代理出席12名、書面議決書での参加25名の計105名の参加で行われました。冒頭、市川英彦理事長より①終戦当時中学生の社会科で行われた「憲法のはなし」を交え、集団的自衛権、特定機密保護法など日本が戦争ができる国になろうとしている事の懸念。②社会保障制度の解体を狙う医療・介護総合法案に断固反対し、声をあげることの必要性。③行政からのお仕着せの地域包括ケアシステムではなく、下から作り上げる住民主体の地域包括ケアシステムの構築。④経済を人間の共同

生活を豊かにする本来の姿に戻す経済の民主化。の4つの視点で総代会をめぐる情勢と課題についてお話がありました。続いて、2013年度事業・活動の報告と決算と剰余金処分案について、高齢者生協、NPO法人ワーカーズコープかがやきとの関係(長野高齢者協同組合グループとして)について鈴木友子副理事長より併せて報告がありました。監査報告を工藤克征監事が行い、2014年度事業計画並びに収支予算、第4次3ヶ年計画、定款の一部改正、役員報酬、議案決議効力発生の特について新井厚美専務理事より、「高齢者協同組合の理念・定義・目指すもの・運営原則」の説明と併せて提案が行われました。会場の総代さんからは方針を補強する意味で、以下の発言がありました。

中信総代 大久保萬里さんからは3月に宅老所北小松から移転オープンしたデイサービス晴の家の状況について、北信理事 前島章良さんからはやすらぎサポート事業と協同墓地の取組みについて、東信 山下多香子さんから東信地域センターで新たに取組む「ふれあいカフェ」について話されました。また、北信総代 武重博明さんから「Webでも発言通告が出来る仕組みづくりの提案、東信総代 木内スミ子さんからは組合員メッソットは事業を通じて「安心」を届けることが重要、東信理事 依田発夫さんからは戦争をしない国から普通に戦争が出来る国への曲がり角に来ている。今こそ私たちが声を挙げ、立ち上がる時であるとの発言がありました。その後採決に移り、全ての提案が賛成多数で可決、承認されました。

参加者アンケートから総代さんの感想を記載します(二部抜粋)
○大きくなった高齢協 たのしく思います。頼りになる高齢協をよりどころに、力をあわせなければと感じました。
○「高齢協は事業の為にやっているのではない」という事、とても感動して聞いておりました。私も仲間に加えていただきうれしく思います。
○総代会に参加し、現行の社会保障を守り、未来の為に充実を求めて力を合わせる決意を新たにしました。
○戦力は一時的なもの、平和力は恒久的な力になるものと思っております。
○理念をしつかり持ち、地域福祉に重きを置かないと。普通の福祉事業者のようになってはいけません。
○今年の総代会、映像はなかったが分かり易い内容でした。方針も展望もある内容でした。
○交流会、楽しい時間をありがとうございました。今後のこともいろいろお話ができて、少しづつ実現しそうなこともあり、組合員として協力できることはできるだけお手伝いさせていただきます。



第16回通常総代会 ルポ

「さわやかな天候
心通わせて」

総代会冒頭市川理事長あいさつでの総代会をめぐる情勢と課題。議案採決前の発言、質疑での、かがやきニュースNo.105号(2014年3・4月号)にも寄稿配信された依田理事の発言。



あいさつをする市川理事長

高齢者生協を創り支えてきているお二人の心のこもった発言は参加者に熱く問いかける、歴史の曲がり角の中で開催された総代会に相応しい、福祉を柱に健康、平和、くらしの生協である私たちの

高齢者生協とはを示す一場面でした。戦時、終戦を多感な少年期に経験されたお二人が特に声を大きく強調して呼び掛けられ

たのが、「憲法を暮らしに生かした仕事こそが、高齢協の仕事そのものである」。

今日、安倍政権が狙う集団的自衛権の行使容認を許さず、憲法を暮らしに生かそう。行使容認で日本は「戦争する国」になってしまふ。憲法解釈だけ変えて海外での武器使用を絶対に許してはならない。時の政権の勝手な都合の良し悪しで憲法破壊の暴走を許さない。立憲主義の破壊は、これを大原則とする日本という国家の破壊に等しい。戦後から現在まで憲法9条を持つ平和な国日本だから海外の人たちにも受け入れられ支援もできた。目の前の孫、子どもたちを戦争に送るような時代にしてはならない、と強調された。

理事長が経験とくらしを取り巻く課題の中で語られた「国敗れて山河有り」国は敗れても人々、土地は残っている、と。依田理事の仕方ないで済ませては何も変わらない。何度でも繰り返して言い続けることの大切さ、組合員として次の孫子の世代に誇れる仕事をしたと思えるくらし方が大切、と発言されている姿が印象的でした。余談ですが、市川理事長が発言を始めようとしたその時、理事長の携帯が鳴った。対応は数秒で終

わつたが、総合同会者の機転で「人の生命を預かっている医師である理事長には緊急連絡は有り得ます」とのフォロー発言には参加者一同納得でした。

(中信通信員・代田登)

「楽しかった、
さあ、これからだ！」

総代会では、事業活動が真摯に適切に実施されていることが報告でよく判り、運営も少数で激務を精一杯やっています。地域活動で会う職員も誠実な人達です。だから事業も15年でここまで発展し、出資も1億円と中小企業の域を超えました。喜ばしいことです。議事後の交流懇親会は、4



交流懇親会のファッションショー

地域総参加の手作りで、飲み、食べ、笑い、時間が足りない程。ファッションショーには腹を抱えて笑いました。実に楽しかった。だが、一つ忘れてはならないことは、専務が第4次3カ年計画の冒頭で端的に触

れました。事業は精一杯やって来た、しかし「高齢協の理念、目指すもの」は「3つの言葉で、地域の老人福祉の協同組合」を標榜するが、一言では、組合員にメリツトがあるかとの自覚です。それは私も気になっていたこと、楽しさや良い人間関係とは別の基本課題だ。植



交流懇親会で全員で歌を歌いながらの手話

年の成木の謬もある、新3カ年計画に具体的な期待をします。

組合員アンケートを実施し、ニーズ把握中と聞く。手一杯の事業の中で取り組み故、職員が抱え過ぎずに、在野の組合員、ボランティア、ネットワークを有効に用いて、ダイナミックな協同の働きが広がることを期待します。3年後が楽しみです。

(北信通信員・高橋鴻志)

「3カ月の職業訓練を 修了して」

今回3カ月という短い期間で介護職員初任者研修の資格取得に参加してみて、介護や福祉について自分が思っていた事と実際の現場は全く違い、考え方が変わりました。



最終日の仕事おこしの発表風景

訓練の最初は座学ばかりの日々で自分にとつては知らない分野の勉強で毎日が学ぶことばかりでも充実していません。

そののちに実技を実際に練習してみても慣れない作業で最初上手くできなかつたけれど、何度も練習をしたりしていると出来るようになりました。

最後のほうになると実際に施設等に実習に行き、利用者さんを介護しました。最初は緊張や不安があり積極的に話すことが出来ませんでした。徐々に話せるようになりました。実習に行ってみて思った事は、自分が思っていた現場とは全く違い、スタッフの方も皆さん楽しく利

用者さんとコミュニケーションを取られていて、とても明るい現場だと思いました。

さらに訓練では演劇の授業もあり、その中でコミュニケーションについて学ぶことができ、これを実際に行っていききたいと思っていました。他にも講義では「仕事おこし」があり、グループでそれぞれ仕事おこしのシミュレーションを立て、どんな事を事業にするのか話し合っ

て決め、個々に3カ月という短い期間で介護について学ぶこともでき、自分が人として少し成長する事ができました。今後この訓練で知り合った人との出会いを大切にしていきたいと思いました。

自分もこれからは介護の世界に行き、もつと深く介護を学び、地域福祉という形で何かしら貢献していきたいと思

(中野市 齊藤裕也)

北信公共職業訓練

「3月修了生」

「介護はみんなだ」

養成科を受講して

介護に以前から興味があり、今回機会がありこの講座を受講することになりました。講座では介護技術はもちろん、高齢者に対して自立を支援し、尊敬を持つて接する事の大切さを学びました。また、長年実際に介護に携わった講師の方の貴重な体験談をお聞きする事ができました。講座の中で多くの受講生が興味を持った授業の一つに「演劇コミュニケーション」というものがありました。人と接する上でどうしたら相手の気持ちを感じ取ることができるか、相手に自分の気持ちをどう伝えるかを学びました。この授業は人との関わりの中で



受講生が作成した事業の案内チラシ

とても役立つ内容だと思いました。また「仕事おこし」という科目もあり、私たちは小グループに分かれて自分たちが今仕事を起こすとしたら何が出来るかを話し合いました。私のグループは古民家を活用した事業を提案しました。古民家を改築するのも従業員を雇うのも資金が無くては何もできません。知識の少ない中、どうにか事業の形ができました。主な収入源は田舎生活を体験できる宿泊施設と、農家の人を登録制にして、庭木の剪定などを行うグリーンサービスとし、その施設は地域の人にも利用していただける場にしたいと考え、高齢者の方にはお茶飲みができる縁側運動の場、子供たちには本の読み聞かせなどする場にしたいと考えました。なかなか面白い取り組みで、私たちも本当に実現するのではないかと思つたくらいでした。色々な学習をさせていただいた養成講座でした。これからも自分たちの仕事に活かしていきたいと思

います。(長野市 米本淑子)

第13回高齢協連合会

新潟総会に参加して

もったいない社会づくり
に参加したい

「百聞は一見に如かず」
を実感する



新潟総会の風景

総会冒頭に市川会長理事より、事業運動の課題として安倍政権による数々の政治問題について触れられ、14年度の活動方針の中にも戦争をする国づくりを反対し、平和を守る活動等が提案されました。高齢協の運動は社会連帯運動の一つとして社会を変えて行く事を目標に全組合員に伝えて行く、その出発点になる総会にという趣旨に絶大な賛同を致しました。

「元気な高齢者がもつと元気に、高齢者が社会の支い手になる」かが高齢協のテーマでもあります。働きたいと思う高齢者がきちんと働ける社会になれるよう、組合員の一人として頑張つて活動しようとした。そこに参加させて頂き感謝しております。

(東信センター武村けい子)

四季のベンチが開所して、4カ月になろうとしています。

四季のベンチだより

ああ、今日は楽しかったよ!

いも寄らない光景が見られています。

オープン前の面接や内覧会でお年寄りご本人やご家族との出会いをはじめ、多くのの方々、関係者と接してきました。それが直接サービスにつながればよいのですが。現在他施設のサービスを利用している人も、施設を変えることがメリットをもたらされると感じないかぎり現状を変えようとはしません。良い変化でも悪い変化でも、変わることをいやがります。そんな中で、ゆっくりですが確実に利用者が増えつつあります。

小規模で利用者とスタッフが濃密な関係をつくりやすいせいでしょう。利用者も日に日に明るく元気になっていきます。老健退所後、ふさがちであった人が穏やかな表情でおしゃべりを楽しめるようになりました。

重介護の利用者も、スタッフとのコミュニケーションで冗談を交わし、今までは違った思

食事時、車イスからイスに移り数口は自分で口に箸を運べるまでになりました。夕方の送りのとき、「ああ、今日は楽しかったよ!」という声がいへん励みになっています。

先日、「医療・介護改革法」が成立しました。地域包括ケアという言葉が頻りに聞かれるようになり、介護保険の縮小が叫ばれていますが、利用者への視線はけっしてブレずに、地域から信頼される施設として利用者を選ばれるサービスをめざして前向きに施設づくりに取り組んでいきたいと思えます。

(東信・四季のベンチケアマネジャー 井出宗通)



総代会に参加して

「熱い思いを

持ち続けたい」

今回は新たな第4次3カ年計画を掲げて出発するための総会でした。理事長のあいさつ、新専務理事の新年度事業計画と運動方針、いずれも今安部内閣のもとで進められている情勢を踏まえて高齢協の理念、定義、目指すものが鮮明になったと思えました。組合員それぞれ、職場にせよ倶楽部活動にせよ、その場所での熱い思いを伝えること、熱い思いが形になること、思いがなければだめなことが強調されたと思えました。私はその言葉にとっても共感しました。

また組

合員アンケートの中で消費税増税も、年金の引き下げも戦争する国に舵が取られようと



総代木内さんからの発言

していることも仕方がないという回答があったことを知り、会場から東信センターの依田理事の熱い思いの発言がありました。私は常に依田理事の思いを身近に感じています、その源を知ることができました。

私の中では今回の総会のキーワードは、熱い思いを持ち続け怒ることだと感じました。

(東信通信員 佐藤千里)

「高齢協理念を地域で生かしたい」

私が高齢協で働き始めたのは昨年の7月からであり、総代会に出席するのは今回が初めてでした。様々な場面で高齢協の理

念等を聞いてきましたが、高齢協の歴史から全体の運営状況等を改めて聞き、私自身さらに深く考える良い機会となりました。

集団的自衛権の問題、TPPの問題等多くの課題がある中で、私たちにどうして社会保障制度の問題は重くのし掛かってくるのではないかと感じました。特養への入所は要介護3以上、要支援の人たちは市町村へと移され、「介護難民」が多く生まれることが予想されます。そうなった時、高齢協の理念にもあるように「ひとりぼっちにならない、しない」「元気な高齢者はより元気に、人と地域のお役に立とう」というのが大切になってくると思えます。高齢協全体がさらに活気づき、地域と共により良い社会に貢献できたらと思います。

(北信総代 大西洋恵)

「高齢協のことを住んでいるまわりの人たちに知らせたい」

3年前に飯田のヘルパー2級講座で高齢協を知り、その講座で協同組合について何時間か学びました。生活協同組合や、海

外の協同組合など協同についての理念を少し知った気がしました。今でも理解するのが難しいなと思つていました。

参加した感想について、大したこと書けませんが、参加して感じたことは、改めて協同とか組合とか自分の所属する環境で、特に居住している地区の組合では、川ざらいとか草刈り、お祭り行事の準備など、皆が一緒になつて参加しなければいけません。

これからの高齢者(自分も含め)の環境は、ますます厳しい状況になりそうですので、高齢協の事業活動が必要になってくると実感しました。

どんなきつかけでも、高齢協の事業活動や高齢協について、多くの人に知ってもらおう事が必要だと感じて帰ってきました。

(南信総代 三宅 弘)



総代会最後全員での「エイエイオー」

東信

みんなで汗かき 荒れ地の畑づくり

〔東信センター組合員ふれあい会

5月23日(金) 恒例の組合員ふれあい会では、朝から鍬やシャベルを持参し軍手に帽子のいでたちの組合員さんが続々集まり、土づくり作業から始まりました。東信センターの駐車場わきにある三角形の荒れ地のいわば「開墾」です。

5月のニュースにチラシを入れて参加をお願いしたところ、普段は来れないけれどこれには協力したいからとか、奥さんが組合員だけど自分は全く初めてという男性などもあり、総勢17人もの作業となりました。もともと埋め立て地になっていたらしく、直径30cmもある石やコンクリートなどが沢山出て来るしまつでしたが、まさに「みんなでやれば怖くない」で、みんなで良い汗をかいて楽しくお昼のおにぎりを食べることができました。荒れ地だったため、



みんなで力を合わせて
荒れ地の畑づくり

有機質の肥料を購入し、土に混ぜたり、稲わらを切り込んだりと、にわか土づくりでしたが、まあまあ耕地が整備されました。その後お花の種や苗を頂いたり、小規模多機能施設「四季のベンチ」の職員や利用者さんがナスやキュウリなどの苗を植えるながら、手入れをしてくださるので、順調に生育し荒れ地だった三角地も立派な畑・花壇に生き返りました。6月下旬、キュウリやナスも採れ始め、利用者さんのお盆に寄せられるようになりました。私たちの楽しみが一つ増えました。

(東信理事 横山孝子)

北信

楽しかった花見交流会

4月23日、参加者23名は3台の車に分乗して出発、昨年楽しませてくれた大山桜も、高坂のしだれ桜も、いまだ花の時期には早く、車は当初の予定通り、飯綱東高原の水芭蕉群生地へと向かう。

スキーを楽しむ人達で賑わったりゾート地はひっそりとして、隣り合うこの群生地に訪れる人も今日はチラホラ。静かな林の中に囲まれ、雪解けを待つ顔のをぞかせた水芭蕉、大き目の葉に抱かれる様に青味をおびた白い花は、黄色いリュウウキンカの群々とよく似合う。一回り30分、手入れのよく行き届いた小道を散策。

次は北信五岳を背に、小高い丘の芝公園を望む霊泉湖畔で小休止。



皆さんで水芭蕉を散策

「ハイチーズ」でパチリ、皆揃った所で待望の石井さん宅へ。全員椅子で座れる様にと、今日のために手作りされたと言われるテーブル

を囲んで昼食の「つくしの里のお弁当」を食べる。石井さんや高橋さんたちが、訪れる仲間達のために早くから準備しておいて下さったお心遣いに感謝。石井さんは、「行政の支えに頼ることではなく、元気なうちは互いに生活を共にし、弱った人には仲間が支え合うそんな生活の場をこの広い土地と屋敷を、志を同じくする仲間達のために使いたい」と。明るい未来への実現に惜しみないエールを送りたい。

昼食をはさんでの交流会、コカリナ演奏に合わせて合唱、次いでファッションショー。モデルは参加者全員。ストールで作ったポンチョは男性達。首にスカーフを巻いて粋な姿で登場したのは、小澤副理事長さん。楽しい時の過ぎるのは早い。

今日一日ありがとう。楽しい集いの計画に力を注いで下さった多くの皆様に感謝して。

(北信センター 瀧本弘子)

わらび狩りに温泉に

6月10日(火)に北信地域センターで『わらび狩りツアー』が行われ、総勢10名の参加者で出かけました。マイクバスで野沢温泉村のロッヂでんべいさんに行き、ロッヂの前

中信

「春のつどい」は 「かがやき」の芽吹き

毎年恒例の芽吹きの会の「春のつどい」。今年は「晴の家」を会場にして4月27日開催しました。「晴の家」は宅老所かがやき北小松が老朽化のため、4月にかがやきデーサービスとして移転新設オープンしました。そこで地域のみなさんや会員のお披露目として、いつもと違った取り組みで行いました。会場の広さの制限もあり大きなことはできませんでしたが、34人の参加で和気あいあいと行われました。

この「晴の家」は北小松の利用者だった方のご縁でできたので、その方のつながりの地域の方や踊りの会の方も参加して下さいました。きつとその方も笑って参加しているはず。素敵な「家」ができましたよ。ありがとうございます。はじめての参加の方も多く、ほんとうにあつたかい「春のつどい」でした。当日提案された芽吹きの会の「小物つく



みんなで山菜料理をほお張ります

び狩りに来て、このポキッというわらびを採る感覚が何年かぶりで味わえて今日ほうれいしかつたわ。」と目がキラキラと輝いていました。わらび狩りを終え、ビニール袋一杯のわらびを持ち帰り、ロッヂの温泉で汗を流しながら野沢の山並みを眺めると、とても幸福な気持ちになりました。

お風呂から上がると、昼食は野沢の山菜料理が10品以上並び、今まであまり食べたことがないあけびのツルなど参加者の皆さんから「これだけの山菜が並んで、参加費が4,000円でいいの?」と言う声も上がり、とても大満足の昼食でした。ツアーの最後には「また来年も来たいわね。」と言う声が沢山出て、皆さんわらびのおみやげを抱え、楽しい帰路となりました。(本部 鈴木繭)

り」も後日「晴の家」で月1で開かれるようになりました。「春のつどい」は風間センター長からの施設の設定経過や紹介のあと、



盛り上がるビンゴゲーム

「信濃の国」体操をし、こじんまりしているからこそできる自己紹介もできました。なぞなぞもしてから芽吹きの会員のお赤飯やおでん、トン汁、デザートなどの手作り昼食です。踊りを見たあと、数字でなく「丸いもの」にちなんだものを出し合うビンゴゲームで楽しみ、「ふるさと」など歌って閉じました。「晴の家」が気軽に立ち寄れる地域や会員の憩いの場として、これからの広がりを予感できる「春のつどい」でした。

(中信通信員 小林幸代)

かがやきニュース前号

(5・6月号)のお詫び

前号のP6〜7ページで特集をしました2013年度「組合員活動」について

北信地域センター内の活動で「炭焼き倶楽部」の掲載が漏れておりました。お詫び致します。「炭焼き倶楽部」の詳細については以下の内容となります。

「炭焼き倶楽部」―炭焼きを行い、炭の販売、炭作品作り等を行っています。不定期開催

北信 中信

「ワーカーズコープかがやき担い手」募集

ワーカーズコープかがやき(長野市、松本市)では、日常生活での困りごとを支援する仕事を担っていただける方を募集しています。(生活支援事業・仕事内容)草取り、剪定、雪かきなど

時給・800円を基本として、15分刻みで精算。(松本地域については、松本市内の方を募集) ※ご希望の方は就労条件等ありますので下記担当者までお問い合わせ下さい。

中信(松本市) 0263-31-8200(風間) 北信(長野市) 026-217-3601(根本)